

# 要 望 書

九州新幹線西九州ルートの整備促進について

令和2年8月

長 崎 県

九州新幹線西九州ルートは、西九州地域の振興や交流人口の拡大等につながる重要な交通基盤であり、関西・中国圏との連携による社会経済の発展に寄与するものであります。沿線地域では、新幹線整備を契機として、百年に一度の規模でまちの佇まいが変化しており、新幹線効果の最大化に向けて、魅力あるまちづくりに取り組んでいるところであります。

武雄温泉～長崎間については、フリーゲージトレイン（FGT）が山陽新幹線へ乗り入れるとの前提で認可・着工に至っております。しかしながら、西九州ルートへのFGT導入は断念され、令和元年8月には、今後の整備のあり方について、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム「九州新幹線西九州ルート検討委員会」から、『フル規格により整備することが適当と判断』し、本県を含む『関係者による検討を深めていくべき』との基本方針が示されました。

令和4年度に武雄温泉～長崎間が開業いたしますが、国土交通省から提案された「5つの整備方式の全てに対応できる環境影響評価の手続き」に、本年8月から着手できなければ、北陸新幹線と同じ令和5年度に着工できなくなるとともに、「暫定」であるべき対面乗換方式が長期化し、本来の姿である新大阪までの直通運行の実現の見通しが立たなくなることにより、強い懸念を抱いております。また、本県にとって、将来の大きな可能性が失われる状態が続いてしまうことは、大変耐え難く、県民に対しての説明が付きません。

本県としては、既存インフラを最大限に活用でき、西九州地域のみならず、九州や西日本全体の発展のためには、山陽新幹線への直通が実現できる、フル規格による整備が必要不可欠であると考えております。

つきましては、国において開発が進められてきたF  
GTの導入が断念されたという特殊事情などを考慮  
し、責任ある立場として、佐賀県のご理解を得ながら  
協議を進め、西九州ルートの整備に関して、次の事項  
について、格段のご配慮を賜りますようお願いいたし  
ます。

## 記

1. 令和5年度に新鳥栖～武雄温泉間の着工ができるよう、早急に、環境影響評価の調査に着手すること
2. 整備財源については、北陸新幹線（敦賀～新大阪）と一体的に議論して確保を図ること
3. フル規格による整備にあたり、地方負担や並行在来線等、想定される課題については、地元の意向も十分に踏まえ、解決を図ること
4. 整備方式に係る関係者間の協議を進展させ、整備効果が最も高く、西九州地域の発展に資するフル規格による整備の早期実現を図ること

令和2年8月

長崎県知事		中村	法道
長崎県議会議長		瀬川	光之
長崎市市長		田上	富久
佐世保市長		朝長	則男
諫早市長		宮本	明雄
大村市長		園田	裕史
長崎県商工会議所連合会	会長	宮脇	雅俊
長崎県商工会連合会	会長	宅島	壽雄
長崎県中小企業団体中央会	会長	石丸	忠重
長崎経済同友会	代表幹事	中牟田	真一
(一社)長崎県観光連盟	会長	宮脇	雅俊

# 【九州新幹線西九州ルート概要図】



